



世界に誇れる、ものづくり

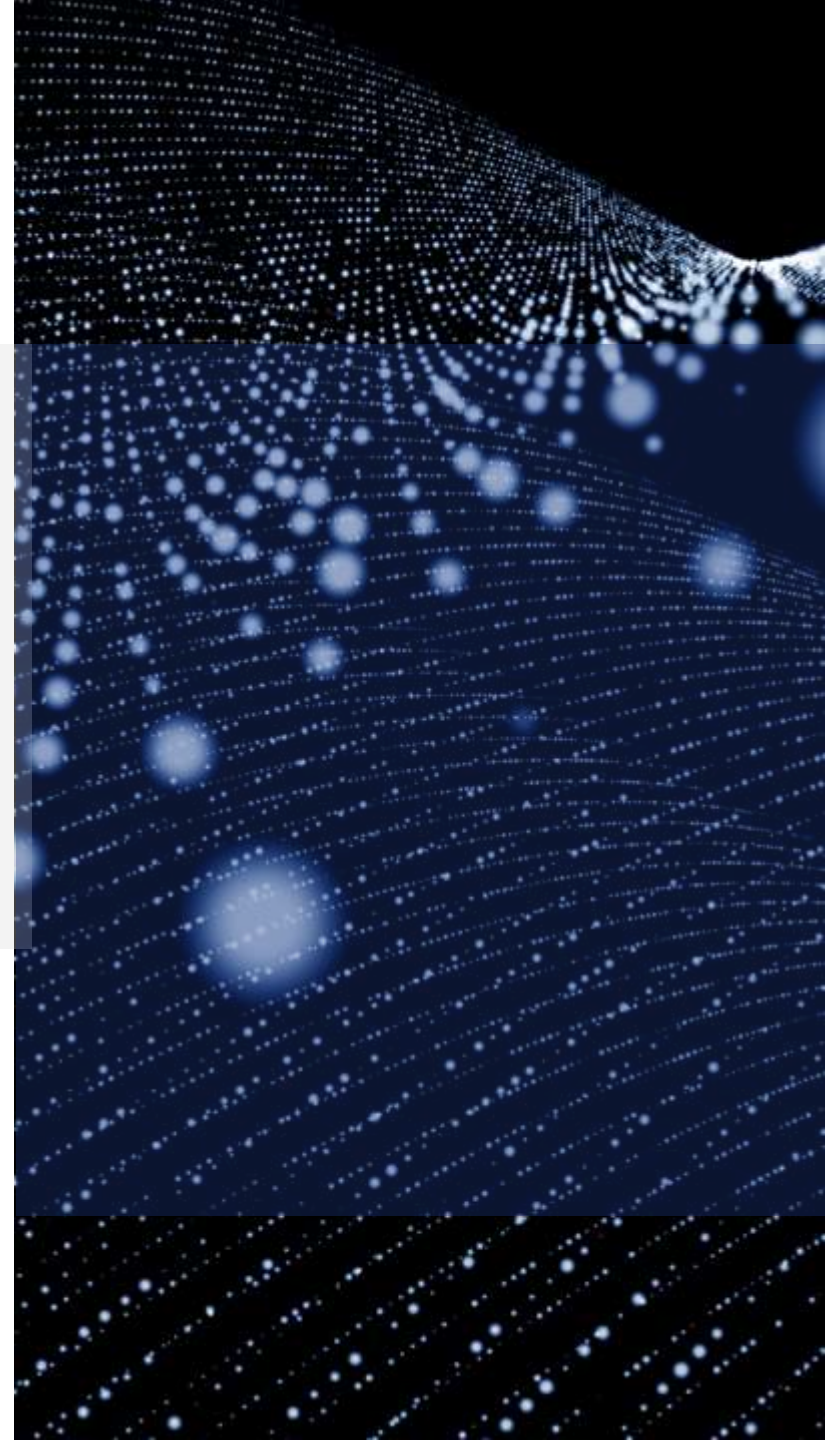
2022年12月期第3四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2022年11月10日

目次

- I . 2022年12月期3Q（累計）決算概況 P. 2
- II . 2022年12月期 業績見通し P.12



I. 2022年12月期3Q(累計)決算概況

2022年12月期(3Q)のハイライト

成長ドライバーの中長期的なトレンドに変化はないものの、リード端子事業の市況は急速に悪化

● マクロ環境

- ・インフレ抑制を目的とした主要国の金融引き締めが続いており、円安が全方位的に加速
- ・中国のゼロコロナ都市封鎖やロシア紛争により、製造業を取り巻くサプライチェーン混乱が継続
- ・米中貿易摩擦に端を発した半導体不足等による自動車減産が長期化する等、景気後退への懸念が浮上

● 事業環境

- ・EV化が牽引する車載や産業機器市場は概ね順調も、情報通信や民生機器市場は急速に悪化
- ・当期前半の高騰が収益を圧迫したアルミ等の主材料相場は、4月以降下落局面が続く
- ・海底光通信インフラにもサプライチェーン混乱の余波により一時的な調整局面に入った
- ・スリランカ政治経済の混乱も徐々に沈静化の気配、計画通りの操業を継続
- ・当社の成長ドライバーとなる「EV化」・「通信トラフィック増大」といった中長期トレンドには変化なし

● 業績(3Q累計)

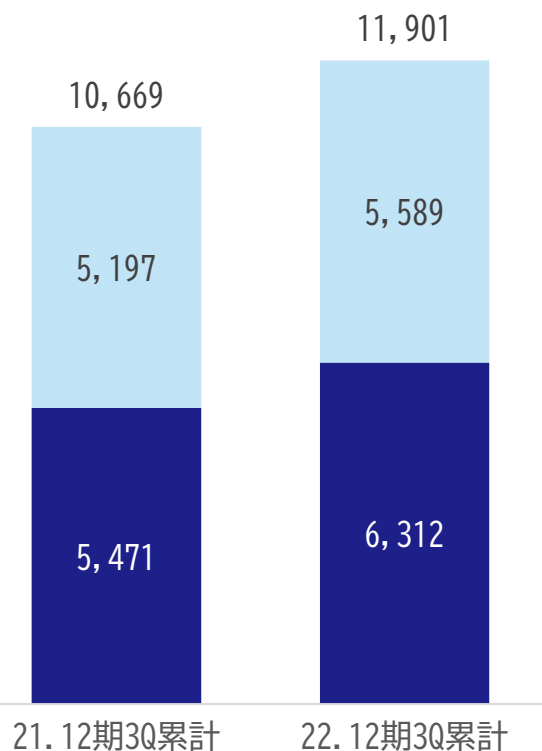
- ・売上高は円安や価格転嫁が追い風となり、前年同期比11.6%(+1,232百万円)の増収
- ・当期純利益については、同21.2%(+472百万円)の増益

セグメント別業績及び国内外売上高比率(3Q)

売上高は両セグメントで増収を確保するも、リード端子事業のセグメント利益は減少

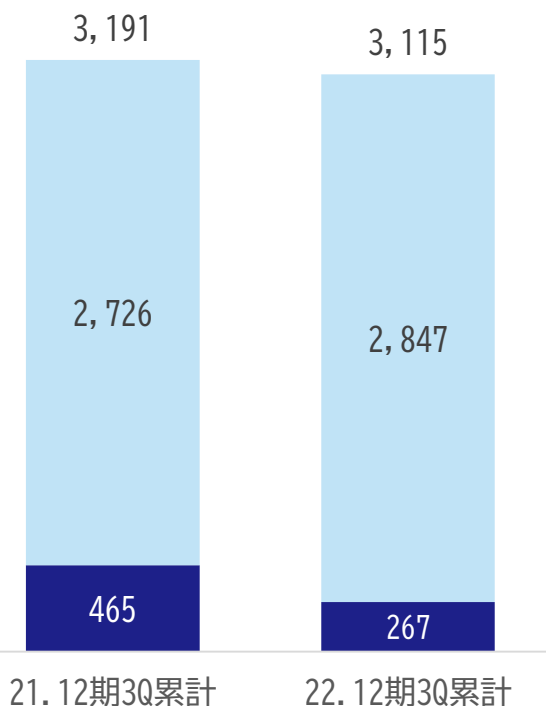
売上高 (百万円)

■ 光部品・デバイス事業
■ リード端子事業



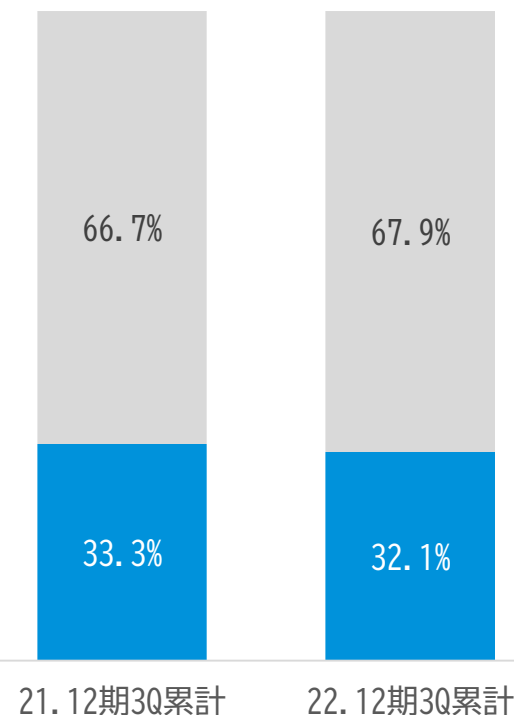
営業利益 (百万円)

■ 光部品・デバイス事業
■ リード端子事業



国内外売上高比率

■ 日本
■ 海外



損益計算書(3Q)の概要

売上高・経常利益・当期純利益については、3Q累計ベースでいずれも創業来最高を更新

(単位：百万円)

	2021.12期	2022.12期		2022.12期			
	3Q累計	3Q累計	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比
売上高	10,669	11,901	+1,232 +11.6%	3,954	4,004	3,943	△61 △1.5%
リード端子事業	5,471	6,312	+841 +15.4%	2,052	2,151	2,107	△44 △2.0%
光部品・デバイス事業	5,197	5,589	+392 +7.5%	1,901	1,852	1,835	△17 △0.9%
営業利益	3,191	3,115	△76 △2.4%	1,062	979	1,072	+93 +9.5%
営業利益率	29.9%	26.2%	△3.7pt	26.9%	24.5%	27.2%	+2.7pt
経常利益	3,391	4,088	+697 +20.6%	1,299	1,432	1,356	△76 △5.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,221	2,693	+472 +21.2%	886	930	875	△55 △5.9%
為替レート（期中平均）	108.58円/\$	128.30円/\$		116.34円/\$	129.73円/\$	138.28円/\$	

※百万円未満切り捨て

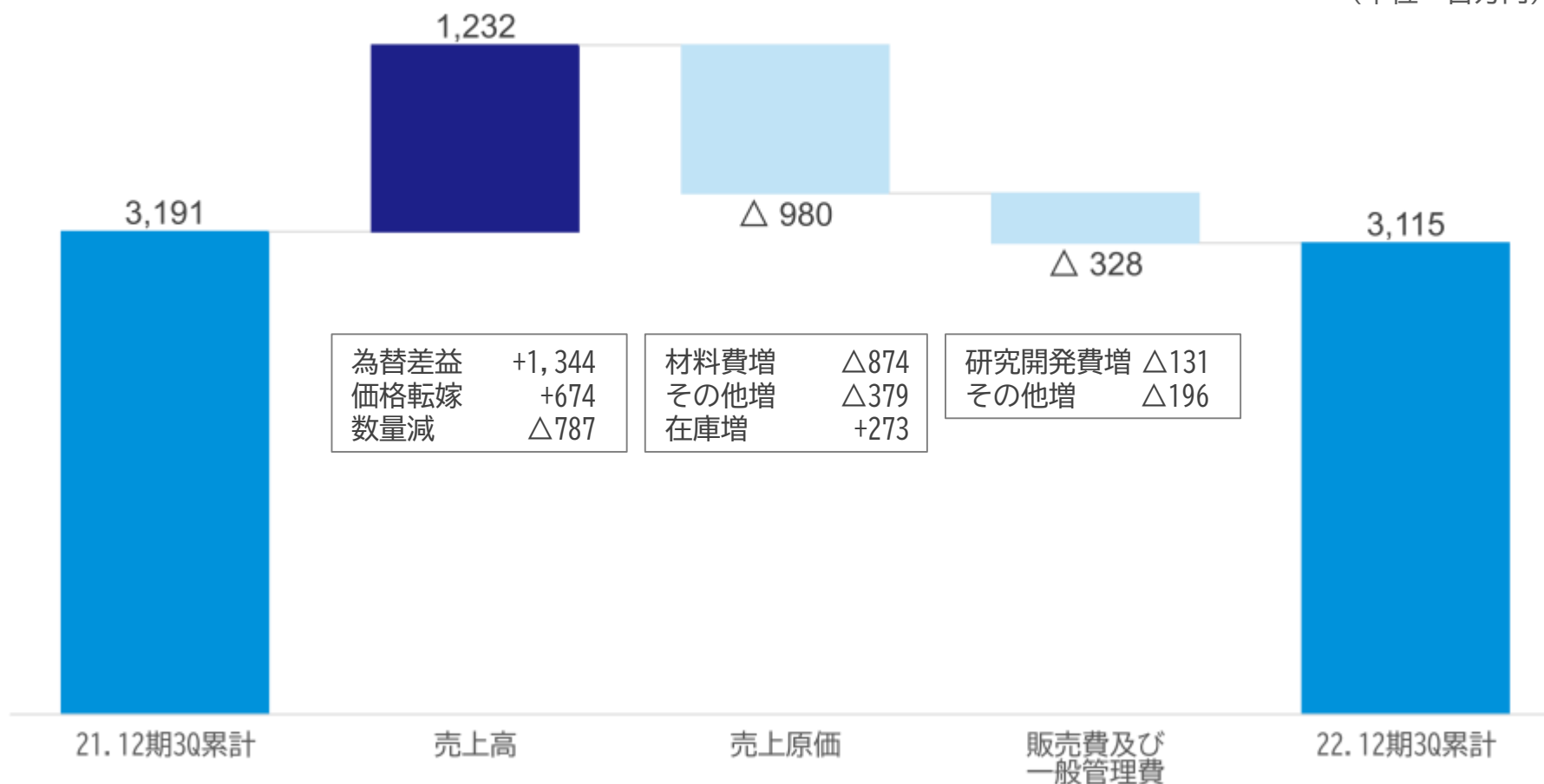
● 通期業績予想

- 各事業の成長ドライバーの市場トレンドに変化はないものの、マクロ経済・為替・非鉄金属市場動向等の外部環境の先行きが不透明であること等を総合的に勘案し、想定為替レートや通期業績予想を据え置く

営業利益(3Q累計)の増減要因

円安等の強い追い風を受けるも足許の市況悪化により、前年同期比 $\Delta 2.6\%$ と僅かに減益

(単位：百万円)



セグメント別業績(3Q) - リード端子

市況悪化による売上数量減と価格転嫁効果が限定的となり、大幅な減益(前年同期比 $\Delta 42.6\%$)

(単位：百万円)

	2021.12期	2022.12期		2022.12期			
	3Q累計	3Q累計	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比
売上高	5,471	6,312	+841 +15.4%	2,052	2,151	2,107	$\Delta 44$ $\Delta 2.0\%$
営業利益	465	267	$\Delta 198$ $\Delta 42.6\%$	105	72	89	+17 +23.6%
営業利益率	8.5%	4.2%	$\Delta 4.3pt$ —	5.1%	3.3%	4.2%	+0.9pt —

※百万円未満切り捨て

2022年12月期3Qの概況

● 業界・市場動向

- ・半導体・電子部品不足等に起因する自動車減産が継続するも、EVへのシフトは順調に進展しており、車載向けは堅調に推移した
- ・一方、PC等の情報通信機器及び民生機器向けの需要が夏場以降グローバルで景況悪化により急減した

● 外部環境の変化とその対応

- ・情報通信機器向けの大幅な市況悪化により、売上数量の低下(純3Q前年比 $\Delta 13.6\%$)を余儀なくされた
- ・原材料高騰分の価格転嫁が進んだが、売上数量の大幅な減少により収益の改善は限定的であった

セグメント別業績(3Q) - 光部品・デバイス

一部納入先のサプライチェーンに支障が生じるも、円安効果がカバーして増収増益を確保

(単位：百万円)

	2021.12期	2022.12期		2022.12期			
	3Q累計	3Q累計	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比
売上高	5,197	5,589	+392 +7.5%	1,901	1,852	1,835	△17 △0.9%
営業利益	2,726	2,847	+121 +4.5%	956	907	983	+76 +8.4%
営業利益率	52.5%	50.9%	△1.6pt	50.3%	49.0%	53.6%	+4.6pt

※百万円未満切り捨て

2022年12月期3Qの概況

● 業界・市場動向

- ・ 海底ケーブル関連市場では、新たに多芯化が進展したプロジェクトが発表される等、需要は堅調
- ・ その一方で、サプライチェーン混乱の余波により、一部納入スケジュールに調整を要している
- ・ 陸上光通信分野においては、光伝送機器向けが調整局面に入っている

● 外部環境の変化とその対応

- ・ スリランカ情勢については、少しずつ落ち着きを取り戻しており、生産活動に影響なし
- ・ 円安効果が大きく寄与して売上高は3Q累計で過去最高水準に達しており、営業利益率についても直前四半期比で4.6pt改善した
- ・ 一部プロジェクト向けの在庫調整により、足許の出荷はやや軟調

貸借対照表の概要(3Q)

両セグメントの成長トレンドに翳りなく、高水準の稼働率維持により棚卸資産が増加傾向

(単位：百万円)

貸借対照表	21.12期末	22.12期3Q末	増減額	備考	
流動資産	17,366	17,597	+231	棚卸資産	+700
固定資産	5,173	5,974	+801	有形固定資産	+723
資産合計	22,540	23,572	+1,032		
流動負債	5,313	3,737	△1,575	借入金	△1,072
固定負債	2,076	1,451	△625	長期借入金	△569
負債合計	7,390	5,189	△2,201		
純資産合計	15,149	18,383	+3,233	利益剰余金	+2,207
負債・純資産合計	22,540	23,572	+1,032		

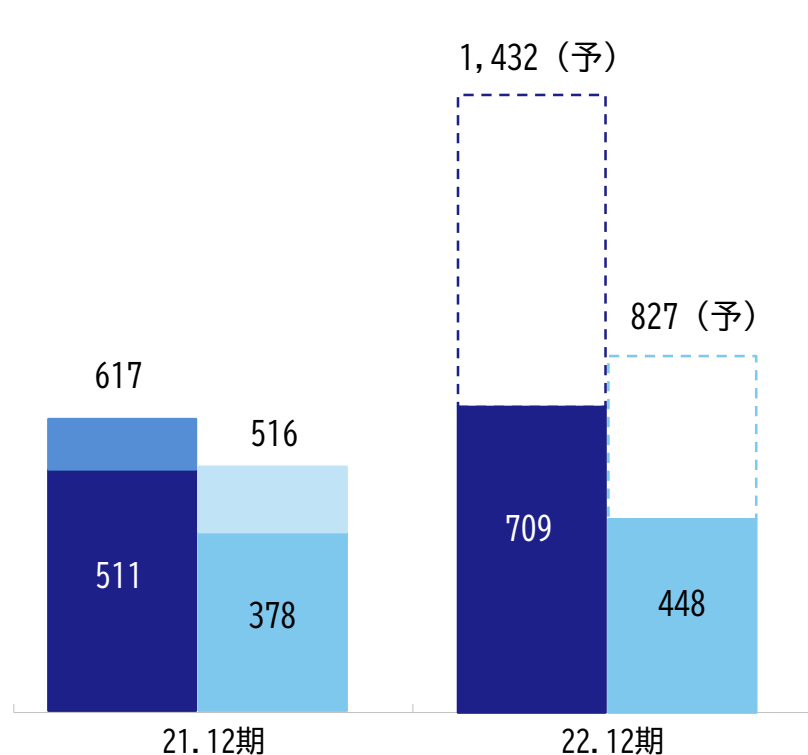
※百万円未満切り捨て

設備投資・研究開発費(3Q)

設備投資は部品不足の長期化等により停滞する一方、研究開発投資は順調

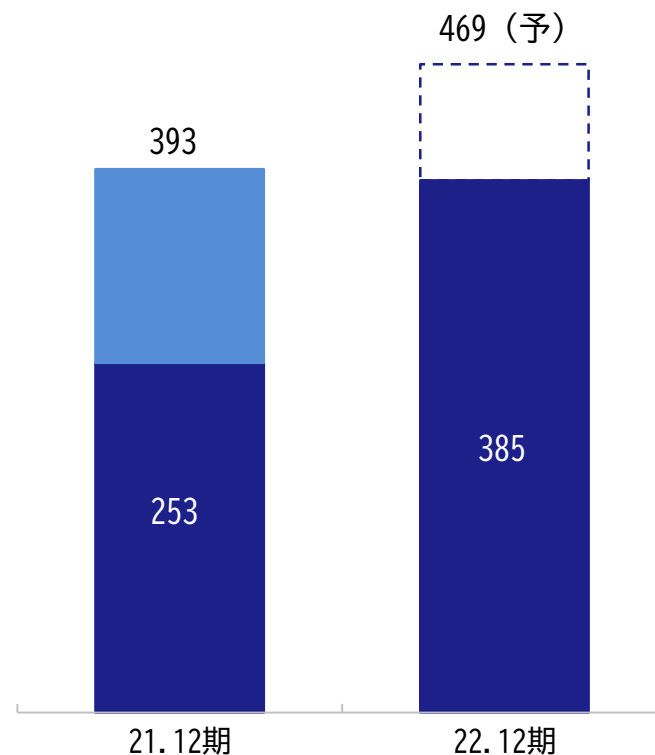
設備投資・減価償却費 (百万円)

設備投資額 ■通期 ■3Q累計
減価償却費 ■通期 ■3Q累計



研究開発費 (百万円)

■3Q累計 ■通期

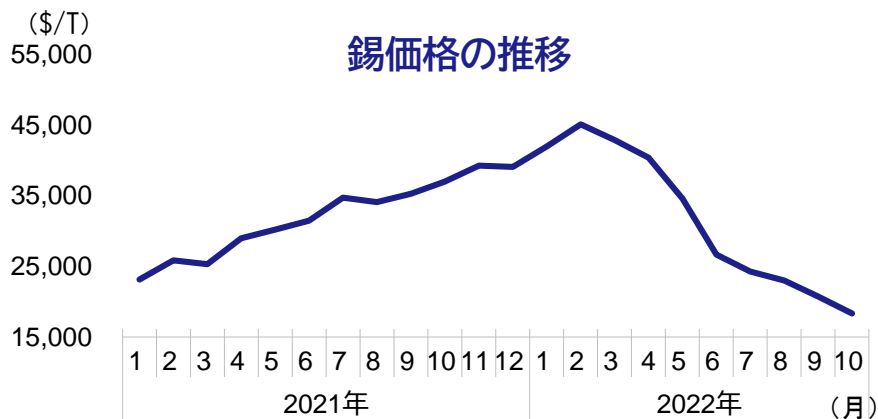
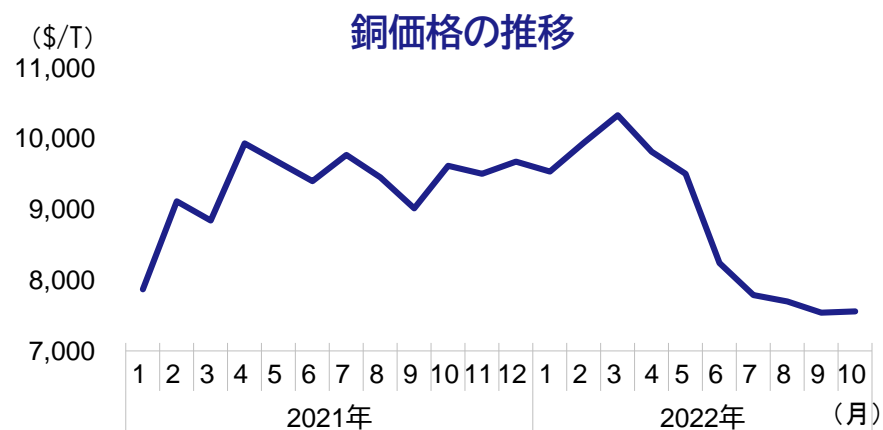
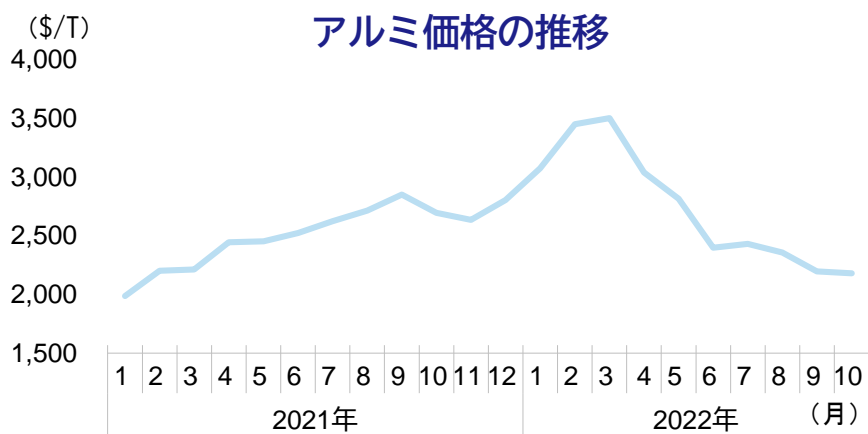


※研究開発費に振り替えた減価償却費を除く

外部環境 - 非鉄金属相場の動向

アルミ・銅・錫等の市場価格が3月に史上最高値圏に急騰するも、ダウントレンドが続いている

非鉄金属相場（LME）の推移



Ⅱ. 2022年12月期 業績見通し

2022年12月期業績の見通し

各セグメントにおける堅調な需要を見込み、10.4%の増収、4.5%の営業増益を予想

(単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期（期初計画）		
	実績	通期予想	対前期増減	前期比
売上高	14,620	16,144	+1,524	+10.4%
営業利益	4,126	4,311	+185	+4.5%
営業利益率	28.2%	26.7%	△1.5pt	—
経常利益	4,363	4,254	△109	△2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,960	3,034	+74	+2.5%
1株当たり当期純利益（円）	406.72	343.61	<為替感応度> 売上高100百万円/円 営業利益30百万円/円	
為替レート（期中平均）	109円/\$	115円/\$		

※百万円未満切り捨て

● 業績予想の根拠

- ・ リード端子事業：EV化は進展するも、生産台数の回復には時間を要するものと想定
- ・ 光部品・デバイス事業：海底ケーブルの堅調な市場拡大を想定

この資料には、当社の現在の計画や業績見通し等が含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が
計画・予測したものであります。実際の業績等は、様々な条件・要素に
よりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料
はその実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217